中野北遺跡Ⅲ

富田林市遺跡調査会報告19
編集・発行　富田林市遺跡調査会
住　　所　〒584−8511
富田林市常盤町１番１号
発行年月日　1998年９月30日

調　査　地　富田林市中野町3丁目3099-4他11筆
調査原因　分譲住宅建設に伴う緊急発掘調査
調査主体　富田林市遺跡調査会
調査担当者　田中正利
調査面積　160㎡
調査期間　平成10年6月24日～9月30日

はじめに（図１）

中野北遺跡は、富田林市の北部にある粟ヶ池とその東側に広がる弥生時代から中世にかけての遺跡です。富田林市では石川に沿うように多くの遺跡がありますが、中野北遺跡がある富田林市北部は特に密集しており、遺跡の北側は桜井遺跡に、南側は中野遺跡に接しています。これまでに遺跡の北側を通る府道美原・太子線に接した部分を中心に調査が行われ、中世の井戸や溝、建物跡が見つかっています。

今回は遺跡の北東部に当たる、石川の段丘崖に

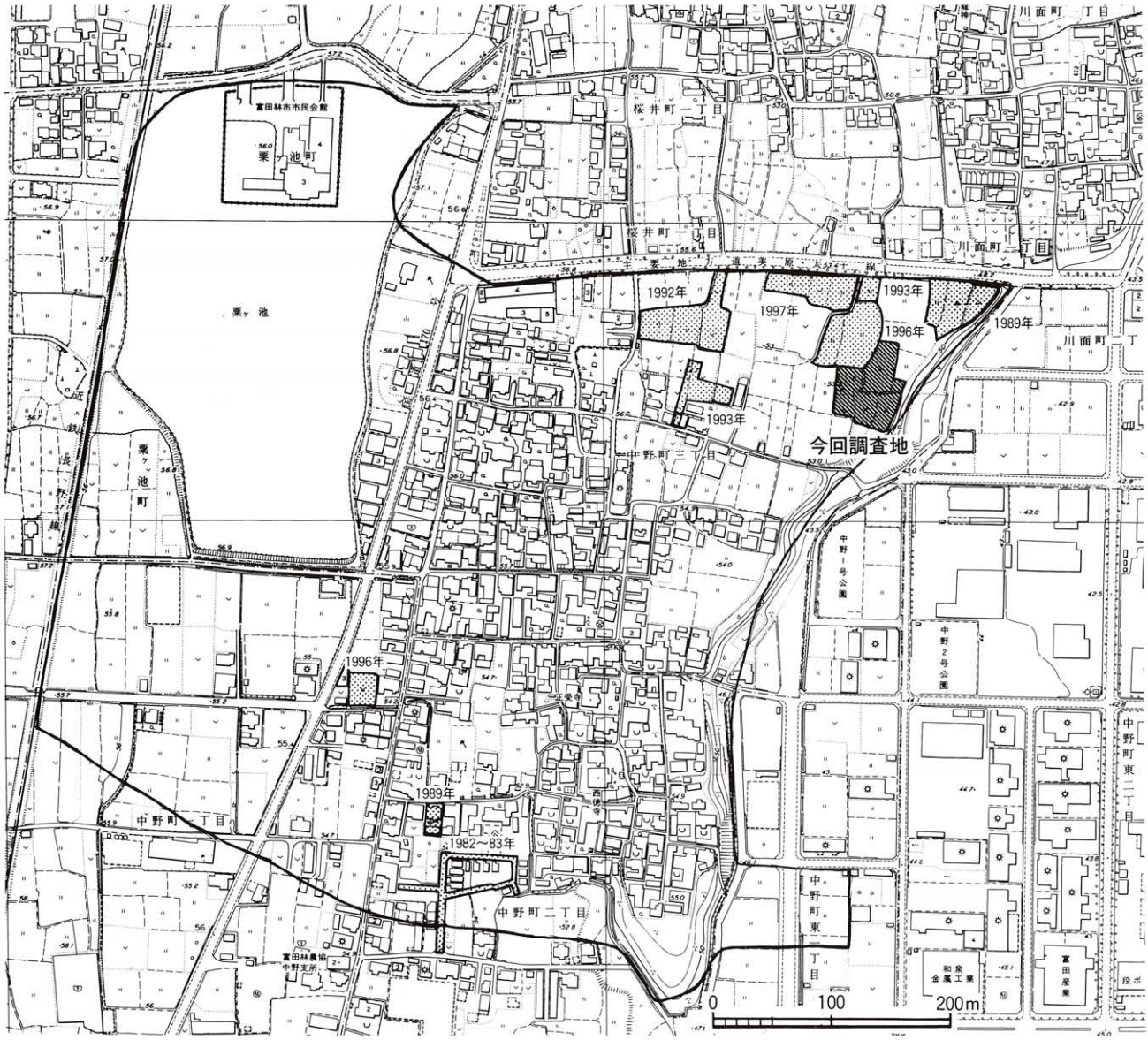


図１　調査地位置図

近い地点での調査で、申請者のタツミ開発株式会社の協力を得て、調査地の南西部の擁壁部分に、南北27m、東西４mの第１調査区と、その北側４mの所に南北５m、東西４mの第２調査区を設けて発掘調査を行いました。

層序

調査前は耕作地で、約0.2mの耕作土の下には整地層が見られます。この整地層はいくつかの層に分けることができますが、基本的に礫を多く含むという特徴があります。また、第１調査区の南端で約0.6mありますが、北に行くにつれて薄くなり、第２調査区では段丘崖に近い北東部を除くと整地層はごく薄く確認できるにすぎません。

このことから、もともとは北西から南東に傾斜していた土地を耕作地にするために整地を行ったことが分かります。また、出土した瓦質土器（図２－８，９）から、この整地は14世紀後半以降に行われたことが分かりました。遺構はすべて整地層の下にある地山面で見つかりました。

遺構と遺物

今回の調査では落ち込み３、掘立柱建物、土坑12、ピット57が見つかりました。

見つかった遺構は埋土の差から大きく５つに分けることができ、遺構の切りあい関係と遺物から埋土の差が時期差として見ることができます。以下、各時期に分けて主な遺構について見ていくことにします。

第１期　埋土が淡褐灰色弱粘質土の遺構で、第１調査区の南側半分で多く見られます。出土遺物はすべて小片で、形状を知りうるものがありませんが、黒色土器や瓦器は含まず、暗文を持つ土師器も見つかっていません。このことから遺構の時期としては８世紀後半頃と考えられます。

第２期　埋土が褐灰色弱粘質土の遺構で、両調査区で見られます。この時期の遺構の１つに掘立柱建物があります。

掘立柱建物は、第１調査区の北端で見つかり、建物の南東隅が確認できました。方向は磁北よりも若干東に振っています。南北２間以上、東西１間以上で、柱穴の心々間は約2.1mあります。根石などは見られませんが柱の痕跡が残っており、直径0.2mの柱をそのまま据え付けていたようです。

また、第１調査区の南側で見つかった落ち込み３もこの時期の遺構です。深さは約0.2mで、試掘坑より東には広がらないようです。

遺構から出土している遺物（図２－１～５）には、８世紀後半の土師器の皿（図２－３）もありますが、土師器の坏の形状や内面黒色土器が混じることから、遺構の時期としては10世紀頃と考えられます。

第３期　暗褐灰色弱粘質土を埋土とする遺構で、第１調査区の北側でのみ見られます。

第１調査区北東隅で見つかった落ち込み１は深さが約0.1mの非常に浅い遺構で、出土している遺物には内面黒色土器を含み、瓦器は出土していません。落ち込み１の底面で見つかった第２期のピットがこの落ち込みに切られた状態で見つかっていることから、遺構の時期としては第２期より若

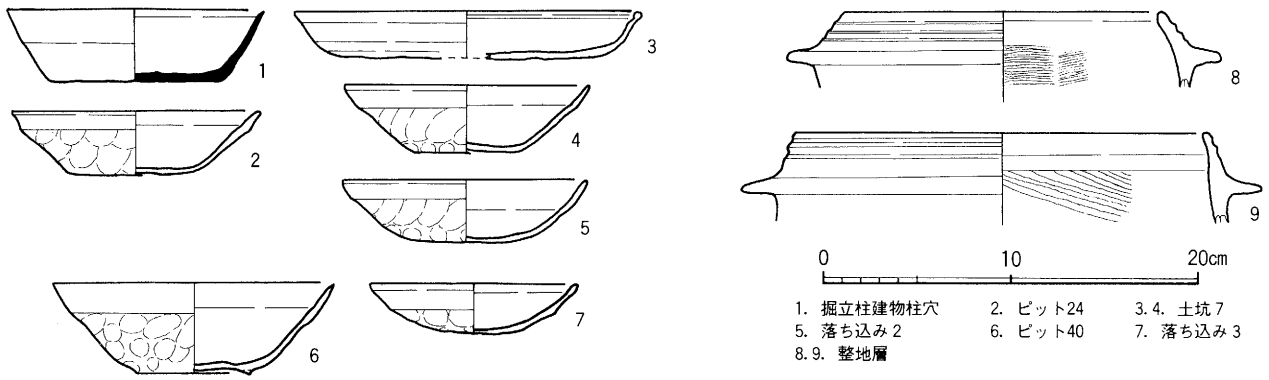
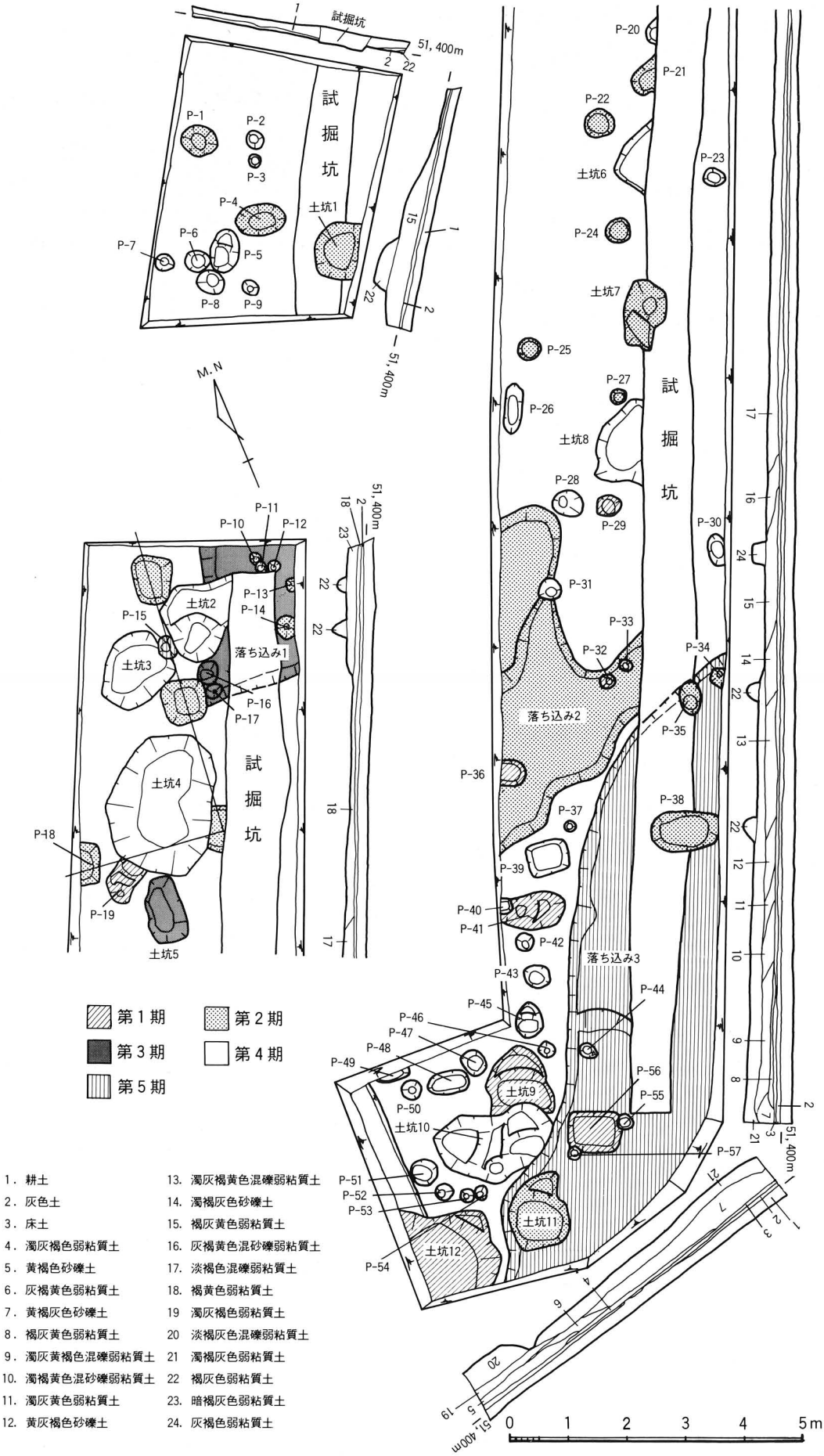
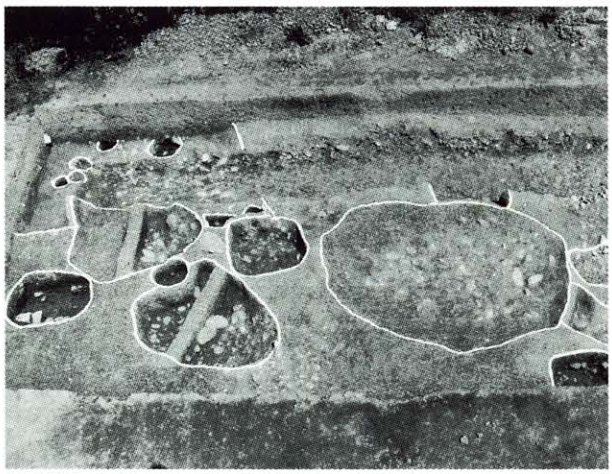


図２　出土遺物

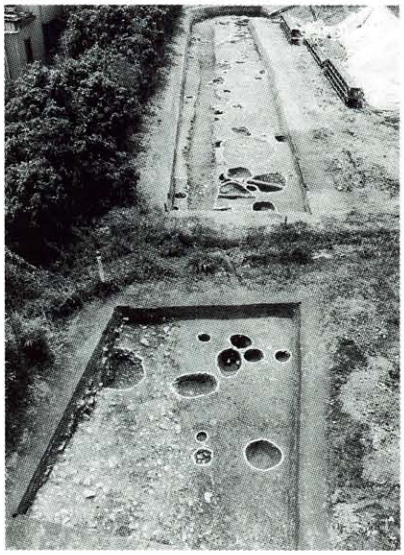


1．耕土
2．灰色土
3．床土
4．濁灰褐色弱粘質土
5．黄褐色砂礫土
6．灰褐黄色弱粘質土
7．黄褐灰色砂礫土
8．褐灰黄色弱粘質土
9．濁灰黄褐色混礫弱粘質土
10．濁褐黄色混砂礫弱粘質土
11．濁灰黄色弱粘質土
12．黄灰褐色砂礫土
13．濁灰褐黄色混礫弱粘質土
14．濁褐灰色砂礫土
15．褐灰黄色弱粘質土
16．灰褐黄色混砂礫弱粘質土
17．淡褐色混礫弱粘質土
18．褐黄色弱粘質土
19 濁灰褐色弱粘質土
20 淡褐灰色混礫弱粘質土
21 濁褐灰色弱粘質土
22 褐灰色弱粘質土
23．暗褐灰色弱粘質土
24．灰褐色弱粘質土

図3　遺構平面・断面図



掘立柱建物近景（西から）



調査区全景（北から）

干新しく、10世紀末～11世紀頃と考えられます。

第４期　灰褐色弱粘質土を埋土とする遺構で、両調査区で見られ、今回の調査でもっとも多く見られます。出土した遺物には高台を持つ土師器の椀（図２－６）や両面黒色土器が見られる一方で、多くの遺構で瓦器片が出土しており、11～12世紀頃の遺構と見られます。

第５期　濁褐灰色混礫弱粘質土を埋土とする遺構で、第１調査区南東部の落ち込み３がこれに当たります。段丘崖に向かって傾斜する浅い落ち込みで、最も深い所で約0.2ｍあります。遺物には瓦器椀（図２－７）がありますが、口縁に段を持つ瓦質羽釜を含むことから14世紀代の遺構です。この埋土は礫を多く含むことから、整地層の一部である可能性も考えられます。

まとめ

今回の調査は段丘崖のすぐそばでの調査でしたが、多くの遺構が見つかりました。特に掘立柱建物が見つかったことで、人々が段丘面のぎりぎりのところまで利用していたことが分かります。

また、これまでの調査と総合して考えると、この辺りが平安時代を中心とした集落であることが考えられます。調査地の西側約400ｍの所には富田林市を南北に貫く東高野街道が通っており、交通の便のよい場所を選んで集落が営まれたのかも知れません。

報告書抄録

ふりがな	なかのきたいせきⅢ
書名	中野北遺跡 Ⅲ
副書名	富田林市遺跡調査会報告19
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著書名	田中正利
編集機関	富田林市遺跡調査会
所在地	〒584－8511　大阪府富田林市常盤町１番１号　☎0721－25－1000
発行年月日	西暦1998年９月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
なかのきたいせき 中野北遺跡	大阪府富田林市 中野町３丁目 3099-4他	27214		34° 30′ 47″	135° 36′ 56″	1998.6.24 ～ 1998.9.30	160.0	分譲住宅 建設に伴う 緊急発掘調査

所収遺物	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中野北遺跡	集落跡	奈良時代～中世	掘立柱建物 落ち込み 土坑、ピット	土師器、須恵器 黒色土器、瓦器 瓦質土器、瓦	